

# RSウイルス感染症

に注意しましょう

こんな症状がみられます



鼻水

せき

発熱

かぜのような症状が数日続き  
多くは軽症で回復しますが、重症化した場合は  
**細気管支炎、肺炎**などを起こします

生後6カ月以内の新生児・乳児への感染や、低出生体重児、心臓・肺・神経・筋肉などに基礎疾患がある場合や免疫不全がある場合などには重症化の可能性が高まります。

こんな時は

機嫌がよく、つらそうでなければ、あわてずに様子を見て、かかりつけ医にご相談ください。**呼吸が苦しそう、食事や水分摂取ができない時は医療機関への受診**をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急」などのWebサイトを参照したり、**#8000(こども医療電話相談)**にご相談ください。



こどもの救急

流行時期

初夏ごろから  
継続的に増加となり  
夏にピークになると  
みられています

感染経路

飛まつ

接触

2歳までに **ほぼ全員が**  
少なくとも **一度は感染**します

予防

水と石けんでの  
手洗い



手やおもちゃなどの  
アルコール消毒

症状がある時は  
可能な範囲で  
マスク着用



こどもを感染症から守るために、家族や周囲のおとなも **しっかりと予防**しましょう

2026年度から、妊婦の方へのRSウイルスワクチンの予防接種が、予防接種法に基づく定期接種の対象になりました。RSウイルスワクチンを妊娠中に接種することで、乳幼児の肺炎・細気管支炎の主要な原因である、RSウイルスの感染を防ぐことができます。

詳細については、医師にご相談ください。また、高齢者が感染すると重症化することがありますので注意してください。

